

会派視察・研修報告書

会 派 名 オールたじみ

代表者名 石 田 浩 司

1 日 に ち	令和 6 年 7 月 2 日 (火)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	札幌市南区社会福祉協議会
3 参 加 者	石田浩司、成田康弘、黒川昭治
4 調査・研修の内容	みなみ生活支援「地域の足」高齢者支援について
5 主 な 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入の経緯及び実施状況について ・ 事業実施による効果 ・ 予算と執行状況 ・ タクシーなど民間団体との利害関係 ・ ボランティア運転手の確保 ・ 利用者及び市民の反応について ・ 今後の課題について
6 所感、提言事項、 課題等	<p>【議員氏名】石田浩司</p> <p>民間事業者（損害保険ジャパン(株)）からの提案で、ディーラー（ダイハツ北海道販売(株)）から試乗車・代車を提供してもらい、札幌市南区社会福祉協議会が運転ボランティアを集めて高齢者の移動手段に対応しています。</p> <p>運転ボランティアは運転講習を受け、登録されています。現在の登録者は5名ですが、コロナの影響により現在は1名で対応しています。運転手も高齢で、今後について不安が残ります。</p> <p>札幌市南区社会福祉協議会は、高齢者からの移動相談を受け、その利用の判断を行います。他にも利用者があると思われませんが、配車の手間や運転ボランティアの不足から、今後の事業拡大は難しい状況です。</p> <p>各地域でボランティア輸送を進めていくためには、まず車の手配が必要です。各自治会は、多くが法人格を持っておらず、車の所有は難しい。札幌市南区社会福祉協議会のようにディーラーが車を提供し（ガソリン代・保険料も含む）、輸送範囲や対象者を</p>

6 所感、提言事項、
課題等

自治会に限定すれば可能ですが、配車する人や運転ボランティアの確保も課題となります。

今後ますます地域にとって必要な移動手段の確保を、市が福祉の視点でどのように捉えていくかが重要だと思います。

【議員氏名】 成田康弘

札幌市の「生活支援体制整備事業」においては、ひとり暮らし世帯や支援を必要とする高齢者が増加する中、地域組織やボランティアなど地域の多様な主体が連携して、ちょっとした生活の困りごとを解決するため、生活支援「支え合いの仕組みづくり」を行っている。

南区は、市内で一番高齢化率が高く（36.4%）、ひとり暮らし高齢者が多く住んでおり、生活支援ニーズ調査では、「買い物・通院への支援」が上位に位置付けられていた。

ダイハツ北海道販売㈱と損害保険ジャパン㈱が、社会貢献活動の一環として店舗の試乗車・代車の活用（燃料費・保険料も負担）について提案され、登録ボランティアを呼びかけ、「運転ボランティア事業」として、サービスを実施。

【運転ボランティア事業】

コロナ禍の影響もあり、利用実績は、60～157回／年で、利用者は、8～21人／年と低調。

事業利用の流れは、次のとおり。

① 会員登録

利用を希望される方は、地域包括支援センター又は社会福祉協会の職員が身体状況などを確認し、利用の可否を判断し、会員として登録

② 利用予約



利用可能日（水・木・金）の9時～17時の2～3時間程度とし、希望日の1週間前までに予約をする。利用回数は、1か月に2回を上限

③ 送迎活動

運転ボランティアが、ダイハツ店舗へ行き、試乗車などで利用者宅へ向かう。希望の目的地まで送迎する。有料駐車場料金などの実費は、利用者負担

広く知らせることは行っておらず、当協議会に相談された方のみに紹介する程度であり、運転ボランティアの確保も同様。

様々な問題があるが、今後も住民の暮らしを支援するために前向きに工夫するとのことであった。

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>本市においても、こうした取り組みの活用を前向きに検討できる体制を整えたい。</p> <p>【議員氏名】黒川昭治</p> <p>札幌市では、ひとり暮らし世帯や支援を必要とする高齢者が増加する中、地域の多様な主体が連携を図り、生活の困りごとを解決するため、高齢者の生活支援「支え合いの仕組みづくり」を行っている。それが、市内にある10の区が行う事業「札幌市生活支援体制整備事業」であり、南区が行っている事業の一つが、「みなみ生活支援運転ボランティア事業」である。注目すべき点は、無料であることである。</p> <p>【みなみ生活支援運転ボランティア事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料無料 ・ 運転手は無償ボランティア ・ 車両はカーディーラーからの無償貸与 ・ 燃料代及び損害保険料はカーディーラー負担 ・ 車両は安全性の高い装備の軽自動車を使用しており、コスト及び運転者への配慮がある。 ・ コロナ禍で運転者・利用者共に減少したが、令和2年の利用回数は157回。 <p>南区の人口は133,596人と当市より多いが、運転手や車両の制限があり、現在エリアを限定しているものの、運行規模の拡大には、検討事項が多い。</p> <p>「頼りにされたい」という願望を持っている人は多く、何かしらボランティアに携わっている人は少なくないと考える。</p> <p>当市において、同じように実施するには問題が多いが、参考案件とするにはよいと考える。</p>
<p>7 写真等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">札幌市南区社会福祉協議会</p>

※ 視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※ 「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。